

## エアラインの温室効果ガス削減を目指し、燃費効率向上に挑む

国際航空運送協会 (IATA) は2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする目標を掲げています。目標実現のための最重要施策は「ガスタービンエンジンでの持続可能な航空燃料 (SAF: Sustainable Aviation Fuel) の活用」で、温室効果ガス削減量の65%を占める見通しです。主に航空機用エンジンおよび部品、機器類の設計、製造、メンテナンス等を事業の柱とする当社でも燃費効率の高い次世代エンジンプログラムへの参画や電動化に向けたフィージビリティ・スタディーに取り組み、カーボンニュートラルに向けた施策に取り組んでいます。具体的な取り組みとしては、エアラインの燃費向上 (CO<sub>2</sub>排出量削減)

に貢献するため、最新の高效率エンジンであるPW1100G-JM (A320neo向け) の売上・投資規模をさらに高めていく計画を立てています。また、エンジンOEM (Original Equipment Manufacturer) との協業深化に力を入れ、より燃費効率の高い次世代エンジン向けの共同開発研究も進めています。

カーボンニュートラルの実現は、コロナ禍への対応と並び航空業界最大の課題の一つです。三菱重工グループがカーボンニュートラルへの取り組みを加速する中で、当社としても、上記の取り組みに加え、航空エンジン分野で何ができるのか議論を深め、全社一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。



MHIAEL長崎工場ロビーの航空エンジン



三菱重工航空エンジン㈱  
取締役社長  
島内 克幸